

生活支援体制整備事業における 取組状況および課題解決について

草津市 長寿いきがい課
地域保健課

生活支援体制整備事業 概要

地域包括ケアシステムの構築について

○高齢化の進展だけでなく、単身世帯や高齢者のみの世帯が増加し、支援を必要とする高齢者が増加することで、生活支援の必要性が増大していく中…

草津市がめざす地域包括ケアシステムの姿



○生活を営む中での困り事をお互い様の地域の中で支え合うこと

○多様な生活支援の活動やサービスは、住民主体、地域の団体、NPO、企業、専門職などの多様な主体が取り組むこと、また、協働で行う事が必要

高齢者自身も

- 暮らしの中での活動量を増やし、健康を維持すること
- 社会参加をし、例えば、見守りや生活支援の担い手としての活動を行い社会的役割を持つことで生きがいがあること

誰もが暮らしやすい地域づくりをいかに進めるか

地域包括ケアシステムの構築について

医療・介護のサービスが充実しただけでは、365日地域で暮らし続けることは容易ではありません。介護が必要になる前から地域で気かけ合い・見守り合い・支え合うことが重要です。

現状の課題

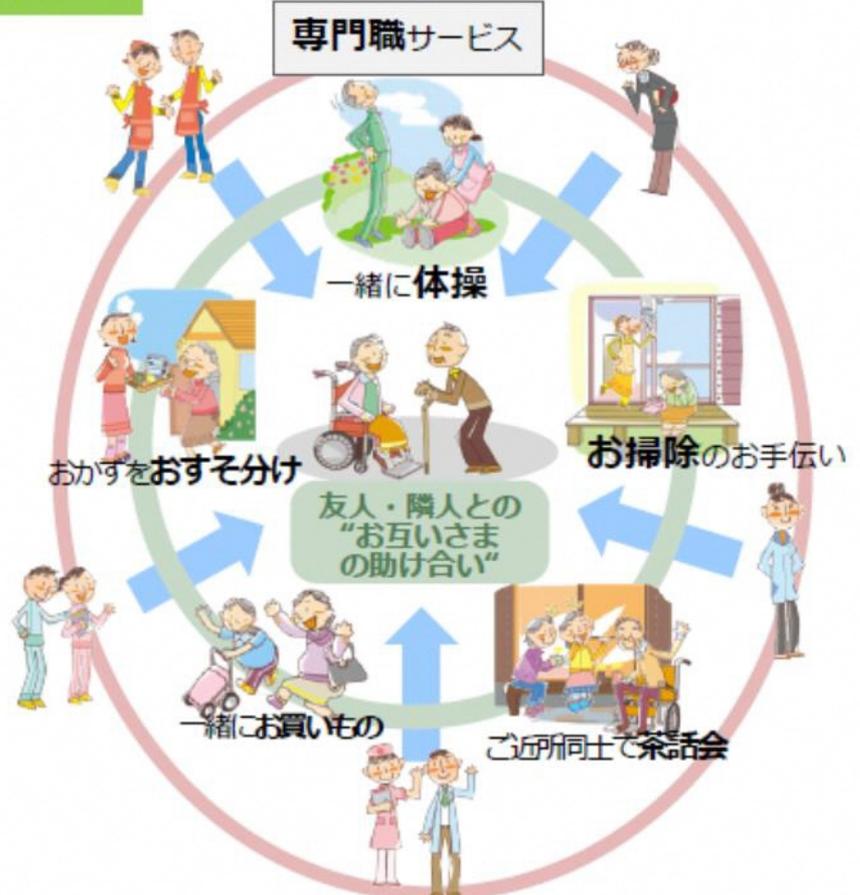


支援や介護が必要になると、友人・隣人との関係は希薄になり、支援を受ける一方の人間関係に変化



これまでの地域とのつながりは疎遠に？

これから



“お互いさまの助け合い”の輪を広げていくことで、支援や介護が必要になっても、地域社会の中から切り離されず、なじみの関係を継続できる

出典：三菱UFJリサーチ&コンサルティング「地域支援事業の介護予防・日常生活支援総合事業の市町村による円滑な実施に向けた調査研究事業 新しい総合事業における移行戦略のポイント解説(中間報告)」平成27年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業)

基本施策(1)地域ケアネットワークの構築 基本施策(2)助け合い・支え合い活動の充実

事業

3 生活支援体制整備事業の推進

【目的】

地域の様々な関係者のネットワークを構築し、高齢者の生活に必要な地域資源を把握するとともに地域の高齢者の困り事は何かを考え、必要な地域資源を拡大・創出することで、高齢者の介護予防やお互い様の声かけ・見守りをはじめとする生活支援の充実を推進する。

→地域包括ケアシステムの構築＝住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるまちづくりの推進

1. 協働の基盤づくり

チームを組み、試行錯誤の協働を通じてチーム力を高めていく

2. 地域資源の把握と地域課題の抽出

地域づくりを「自分ごと」として捉える人を増やすと同時に、資源の充実に向けた方針を検討する

3. 地域資源の充実

①多様な参加の
きっかけ作り

②今ある活動や
サービスの強化

③新たな活動や
サービスの開発

生活支援コーディネーター
(地域支え合い推進員)
+
協議体

第1層 (市域全域)
第2層 (各小学校区)

第1層協議体、生活支援
コーディネーターの役割

◇地域横断的な課題の抽出
や資源の充実
◇複数の第2層、市全域、
広域で左記の機能を実施

※ S C…生活支援コーディネーター

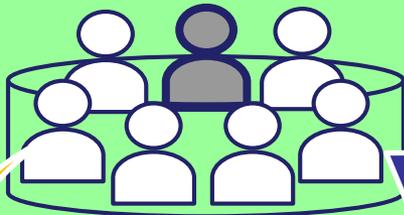
第1層 (市域全域)

草津市あんしんいきいきプラン委員会
(= **第1層協議体**)

第1層 S C (長寿いきがい課)

第1層協議体

平成31年2月27日開催の第3回草津市あんしんいきいきプラン委員会において、草津市あんしんいきいきプラン委員会を第1層協議体と位置付けることを了承いただいています。



【役割】

- 市域全域や複数の第2層協議体に関わる広域的観点から
- ◎ 企画、立案、方針策定を行う場
- ◎ 地域づくりにおける意思統一（方向性の共有）の場
- ◎ 地域づくりを推進するための施策等の検討

第2層 (小学校区)

第2層 S C

第2層 S C

第2層 S C



第2層協議体

第2層協議体

第2層協議体

【役割】

- 各小学校区（第2層）において、
- ◎ 有機的なネットワーク化
- ◎ ニーズと取組のマッチング
- ◎ 地域資源の発見・新たな創出

※第2層 S Cは市社協へ委託。また、地域保健課が第2層 S Cを支援。

※協議体…「学区の医療福祉を考える会議」において、地域課題から地域づくりを行う主体

草津市における 令和3年度の取組

令和3年度 取組計画（年度当初に設定）

目指す姿：住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らし続けられるまちづくり

ねらい・方向性

- ・市社会福祉協議会に第2層SCを配置し、市・地域包括支援センターとの連携のもと、各学区での協議体の設置・運営に向けて取り組む。
- ・第2層協議体では解決できない地域横断的または市全域の課題として検討が必要な事項については、第1層協議体において協議する。

R3計画

- ・各地域包括支援センターが主催する地域ケア個別会議等での検討を通じて、地域課題の抽出を行い、課題解決に向けた取組方法の検討を行う。
- ・第1層協議体である「草津市あんしんいきいきプラン委員会」において、第2層（各学区）の取組状況や課題等について報告を受け、市域全体として検討が必要な課題や対策等について協議する。

第1層SCの取組実績

SCの取組

- ・ケアマネジャー等の介護事業所に対する、地域資源の実効的な周知方法について、第2層SC・地域保健課（地域包括支援センター・第2層SCの委託元）と協議した。
- ・地域課題の抽出や課題解決に向けてのプロセスを学び、地域課題抽出と課題解決方法を見出すため、第2層SCとともに研修会を開催した。（令和4年2月18日（金））

次年度への課題

第2層の地域課題の抽出方法、解決策の検討方法の変革を促す

⇒ 第2層協議体は、第2層SC、地域包括支援センター、地域役員等により構成されている。

このうち地域役員には、地域に根差した課題や解決策の検討のために参画いただいているが、役員交代に伴って、課題整理や解決策に関する継続的な検討および深掘りといった一連の取組に終始関わっていただくことが難しく、また、役員交代によって検討が振り出しに戻る場合もあり、現在の検討体制では地域役員の参画を活かしきれておらず、結果として課題解決の手段の実現に至っていない。

こうした経験を踏まえ、**第2層SCが主体的に地域のニーズを掴み、課題解決方法を地域に提案するなど、地域から得た意見を反映していけるような体制や方法を構築できるよう検討する。**

第2層SCの取組実績

■ 高齢者の個別ニーズ（居場所や生活支援等の困り事）に対応するため、地縁団体による地域の支え合い活動について第2層SCが個別に聞き取りを行い、情報収集とネットワークづくりを実施し、学区ごとにまとめた社会資源シート「みんなの生活キラリ☆まもりリスト」を作成した。

⇒ 支援者向けの情報ツールとして、高齢者の支援者（地域包括支援センター、ケアマネジャー）に提供し、第2層SCが支援者からの相談に応じ、社会資源とのマッチングに際して活用した。



第2層SCの取組実績（各学区ごとの主な取組）

■コロナ禍で感染症対策を行いながら、協議体（学区の医療福祉を考える会議）で検討を重ね、地域の関係者ととともにさまざまな取組を実施。

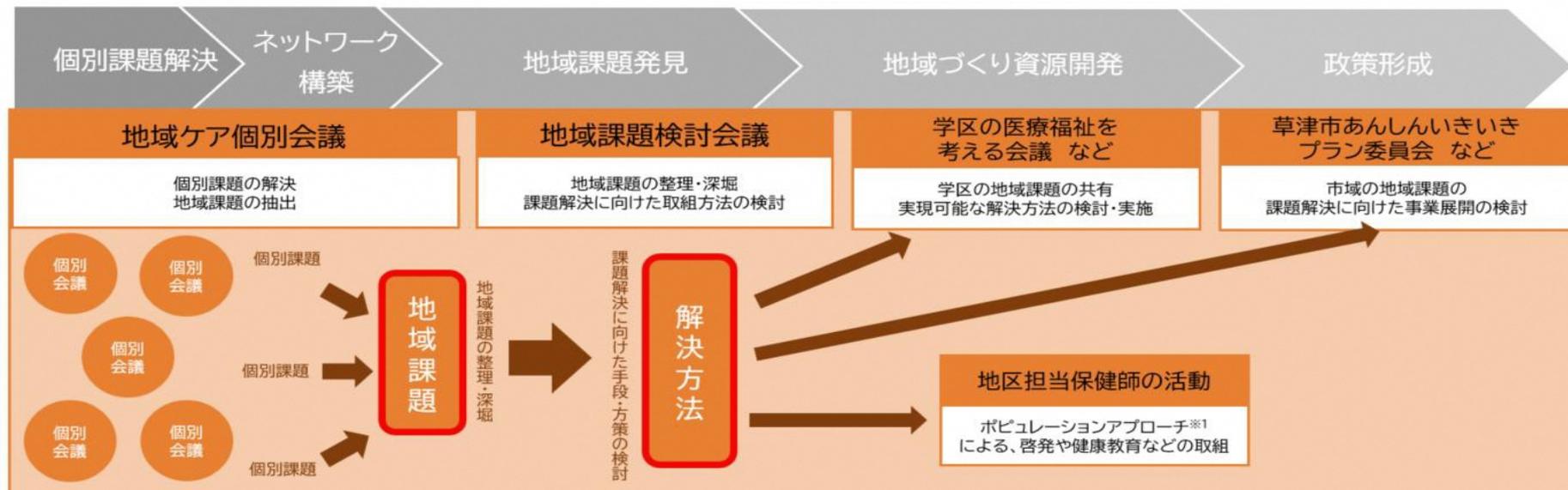
- ・身近な居場所づくり・つながりづくりを目的に、「居場所マップ」「ランチマップ」を作成し、学区内に全戸配布【志津】
- ・つながりや居場所づくりを目的に、地域のサロンへの出張健康相談会（座学と質問コーナー）を計画中【渋川】
- ・つながりづくりのツールとして「いのちのバトン」を作成し、学区内の高齢者に配布【老上】
- ・地域、介護事業者、包括からみた「地域の困りごと」の洗い出しを行い、地域でできることについて検討中【老上西】
- ・コロナ禍での各所属団体の取組を発表し、お互いの取組に関する理解を深めた【玉川】
- ・介護事業者とともに、地域の高齢者を支え合うつながりづくりの課題・情報交換を行い、取り組める活動の創出を目的に「地域サロン交流会」を実施【山田】
- ・介護事業所との交流会を実施。「笠縫学区のあったらいいな」を踏まえ、介護事業所と一緒に取り組みたいこと（できること）を検討【笠縫】

基本施策(1)地域ケアネットワークの構築 基本施策(2)助け合い・支え合い活動の充実

第2層SCへの活動支援（地域保健課）

■生活支援体制整備事業の重要性と第1層・第2層SCの役割、効果的な協議体の持ち方、地域との協働についての研修会「生活支援体制整備事業研修」を開催した。
(令和4年2月18日(金))

■第2層協議体（学区の医療福祉を考える会議）で地域の実情に応じた地域課題の共有と解決の検討ができるよう、個別課題の扱いについて、第2層SCと地域包括支援センターと共に整理をした。



※1 対象の集団へ働きかけることにより、健康への意識を高め、生活習慣や病気のリスク軽減を図る方法。多くの人々の健康増進や病気の予防につながる健康づくりの取組。

第 1 層協議事項

R3 地域ケア個別会議から抽出された課題

■ R3 年度地域課題検討会議

地域課題を抽出し、各学区や市全域で取組む課題を検討

○地域ケア個別会議 54件

孤立に関すること

- ・男性が介護者となると、地域の活動や近所付き合いから遠ざかる傾向があり、男性介護者の集まりの場などが必要
- ・プライドがあり、介護サービスを利用せず、家族で抱え込んでいることから、早期に認知症に気付く啓発や、支援体制づくりが必要
- ・地域住民同士の関わりが薄れており、高齢者の見守り役がおらず、また民生委員の負担が大きい地域があり、見守りについての勉強会やボランティア、ICTを活用した見守りの支援が必要

「孤立」に関する課題が
他に比べて多く抽出

認知症への理解に関すること

- ・認知症への理解を深め、認知症の方への適切なサポートができるような啓発が必要
- ・認知症に対する若い世代への啓発が必要
- ・認知症の早期発見につながる仕組みが必要

ごみ出し支援に関すること

- ・高齢者がごみ出しが困難になってきており、ごみが家にたまっている現状であり、互助でのごみ出し支援や、ごみ出しの制度が必要

移送支援に関すること

- ・高齢者が、自家用車以外の移動手段がなく、免許返納をすると、買い物や趣味活動に出かけられないため、タクシー補助券などの移送支援が必要
- ・免許返納後、外出する機会が少なくなり、行動範囲が狭まった方も多く、まめバス等がもっと有効的に利用できるよう施策の練り直しが必要

協議事項

～高齢者の孤立を防ぐための今後の取組について 御意見をお聞かせください～

■現状■

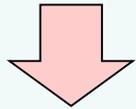
介護や支援が必要になっても高齢者が自分らしい暮らしを実現するためには、地域でのつながりや支え合いが重要となりますが、昨今は住民同士の関わりが薄れ、自身の思いに反して周囲から孤立した生活を余儀なくされる方がおられます。

■問題点■

孤立した生活を送ることで、地域に出る機会を失い、自身の役割を見出せずに、生きがいや意欲の低下につながります。

■今後の方向性■

高齢者の持つ経験や特技を資源・サービスととらえ、地域等のニーズとマッチングさせて孤立させない仕組みをつくることが重要であると考えています。



協議事項

高齢者の孤立化防止を目的として、高齢者が自身の能力を活かした「担い手」として活躍できる場を提供するために、地域のニーズとつなげていく方法や効果的な取組があれば、御意見をお聞かせください。